

## ◎スポーツと健康

### 概要

在学中および卒業後の豊かなライフスタイルを形成できる心身の基盤を養う。

### 達成目標

人間力の育成として、身体・体力面（自己コントロール、適応力、耐性、自律性、達成感など）とともに社会・対人関係面（共感力、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど）における能力の向上を図る。

### カリキュラムの方針

1年次対象科目として、複数教員が6運動種目（ソフトボール、バレーボール、テニス、サッカー、卓球、フライングディスク）を担当する。一般的に普及している集団的スポーツと個人的スポーツで構成し、その中に軽スポーツ的な内容（卓球）を配して学生のニーズに応えられるようにしている。学生は、希望によって分けられたグループ（種目）ごとに受講する。週1回の授業の中で、自己の体力および心身の健康への認識を深め、それぞれの運動種目の基礎技能並びに基本的知識（戦術、ルール、マナー、審判など）を修得するなど個人的な能力の開発をめざす。また、ゲームを多く体験することで、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上をねらうとともにチームワークを高め、試合運営について熟知できるようにする。

一方、グループを定期的に変えることで、様々な人達と接する機会を増やししながら、グループ間での学び合い、経験者による初心者指導、器具・用具の準備・片付け等における協働作業など、社会・対人関係力の形成に努める。

また、それぞれの学生のレベルに応じたプログラムを同時に実施することで、運動する楽しさや意欲的な学修への動機づけを行う。

以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。

## ◎情報処理基礎

### 概要

すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。具体的には、オフィス系ソフトウェア、ウェブ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報倫理、総合メディア基盤センターのコンピュータおよびネットワーク環境について、講義と実習を併用した形式で学修する。

### 達成目標

情報化社会を賢明に生きるとともに、専門分野でリーダーシップを発揮するためには、情報の検索、交換、表現や分析等の利用技術に通じること、とりわけインターネットなどの高度情報ネットワークを効果的に活用する能力が必要になる。また、情報犯罪から身を守るため、そして知らずして社会に迷惑を与えてしまうことが起きないよう情報化社会の光と陰の両面を理解し、基本的な情報倫理や情報セキュリティに関する知識を身につける必要がある。

本授業では、情報化社会で必要不可欠とされる情報リテラシー（情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力）を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深め、情報社会に創造的に参画する素養を修得することを目標とする。

### カリキュラムの方針

すべての学生が共通的に修得すべき内容を中心に、学問領域の性質を考慮し、学部・学科等ごとに相応しい事項を反映させた編成とする。

## ◎とちぎ仕事学

### 概要

大学で学ぶ数年間の拠点となる「栃木」を知り、「栃木」を通して「地域社会」を知り、栃木をフィールドに「仕事とは何か」を考えることを通して、「地域社会」と「自分自身の生き方」「働き方」の関係性を学ぶ。

### 達成目標

- ・地域社会の課題を自分自身の学びや生活との関係性において捉え、現代社会に生きる当事者としての基本的な学びの姿勢を身につける。
- ・地域社会の可能性を自分自身のこれからの可能性と重ねあわせ、専門で学ぶことを活かし、ポジティブに課題の解決策や可能性の活かし方を考えていくための基礎体力を養成する。

### カリキュラムの方針

基盤教育の目標である行動的知性の養成を進めるために、この授業では、「仕事」の定義を、単に報酬に代える「労働」としてではなく、社会参画の「活動」として捉える。栃木県職員や県内の民間企業で働く先輩、県外へ出て都内で働く先輩などをゲスト講師として迎え、講師と学生および学生同士の意見交換の時間を効果的にとりながら思考を深めていく科目とする。

## ◎基盤教育英語科目 (EPUU)

### 概要

基盤教育の一環として、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養い、地球的な視野を持った 21 世紀型市民の育成を目指す。

### 達成目標

「読む」「書く」「話す」「聴く」の 4 技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、文化的背景に関する知識をも身につけさせることにより、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力を養成する。

### カリキュラムの方針

1 年次対象科目として、日本人教員による「Integrated English IA」(前期週 2 回)、「Integrated English IIA」(後期週 2 回)、外国人教員による「Integrated English IB」(前期週 1 回)、「Integrated English IIB」(後期週 1 回)を開設している。2 年次対象科目としては、前・後期に、skills 別の 15 種類の「Advanced English I」を開設しており、その中から前期 1 科目(週 1 回)、後期 1 科目(週 1 回)を、選択必修として履修させる。更に 3、4 年次対象の選択科目として、「Advanced English II」、「Advanced English III」を開設している。

「Integrated English A」においては、Study Skills の養成後、Oral Communication と Reading を主とした 4 skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を図る。「Integrated English B」においては、Oral Communication と Writing を主とした 4 skills の育成を図る。「Advanced English I」、「Advanced English II」、「Advanced English III」の各クラスにおいては、1 年次で修得した基本的な英語運用能力を基に、特定の skill に焦点をあてた英語力の育成を図る。個々の学生が自己の興味や必要に応じて、学修対象 skill を選択する。

習熟度に対応した英語教育を徹底し、そのために、入学時及び 2 年修了時までの各学期末の計 5 回、全員に TOEIC を受験させる。スコアを基に、1 年次生を 5 ないし 6 レベルの、2 年次生を 2 レベルの習熟度別クラスに分ける。

各学期末の TOEIC を未受験の場合には、当該学期の単位を授与しない。

ことに、習熟度の高い学生の英語力育成には力を入れており、入学時 TOEIC 650 点以上を取得した学生 Honors Student は、通常学生と異なる Honors Program 即ち「英語優等生プログラム」を、4 年間にわたり履修可能である。

以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の 50% 以上になることを目指す。